

1. 大課題名 II 高品質・高付加価値農産物の生産・供給技術の確立
2. 課題名 ブロッコリー収穫作業の機械化による省力化の実証
3. 試験担当機関 愛知県農業総合試験場 東三河農業研究所 野菜研究室
・担当者名 技師 中野瑞己
4. 実施期間 令和2年度～令和3年度、新規
5. 試験場所 東三河農業研究所 場内ほ場

6. 成果の要約

定植時の「深植え」と中耕時の「深い中耕（株元まで土を寄せる中耕）」を実施することで、ブロッコリーの生育および整列性が向上することがわかった。また「深植え」と「深い中耕」を併用することでより整列性が向上することがわかった。

7. 目的

ブロッコリー収穫機の省力化を検証するとともに、一斉収穫に適した品種選定、栽培技術の確立を目指していく。また、本課題に取り組むことにより、一斉収穫を前提とした流通体系が検討されるとともに、収穫機を利用した大規模経営体が出現し、産地が活性化することを期待する。

8. 主要成果の概要及び考察

(1) 収穫作業能率・精度試験

収穫時期が2月上中旬のため調査未実施

(2) 一斉収穫試験

収穫時期が2月上旬から3月上旬予定のため調査未実施

(3) 整列性向上試験

深植え（セル成形苗の子葉が埋まる深さでの定植）することで、整列性および生育（開張幅）が向上した。また、深い中耕（株元まで土を寄せる中耕）をすることで、傾きが大幅に軽減できることがわかった。深植えと深い中耕を併用した区が最も整列性が良くなった。深植えすることで、活着が良くなった結果、生育量の向上および根張りの向上による傾き抑制につながったと考えられた。

9. 問題点と次年度の計画

・次年度計画

品種や収穫時期による違いから、収穫機利用に適した品種特性および栽培方法を検討する。一斉収穫、収穫機利用に適した大玉化が可能で、生育揃いの良い品種の選定を行い、収量を最大化する収穫時期、栽培方法（株間、施肥等）を検討する。

10. 主なデータ

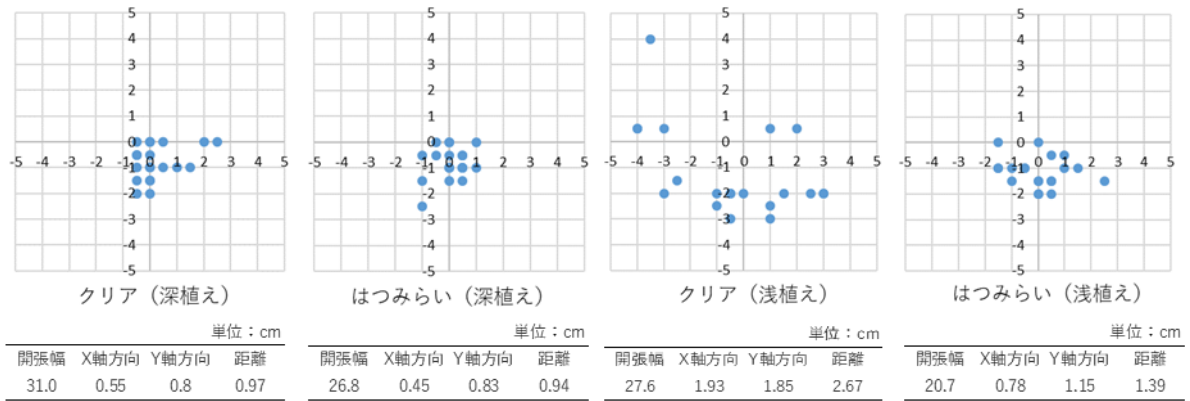


図1 定植位置から生長点位置までの距離 (定植1か月後_10月19日)

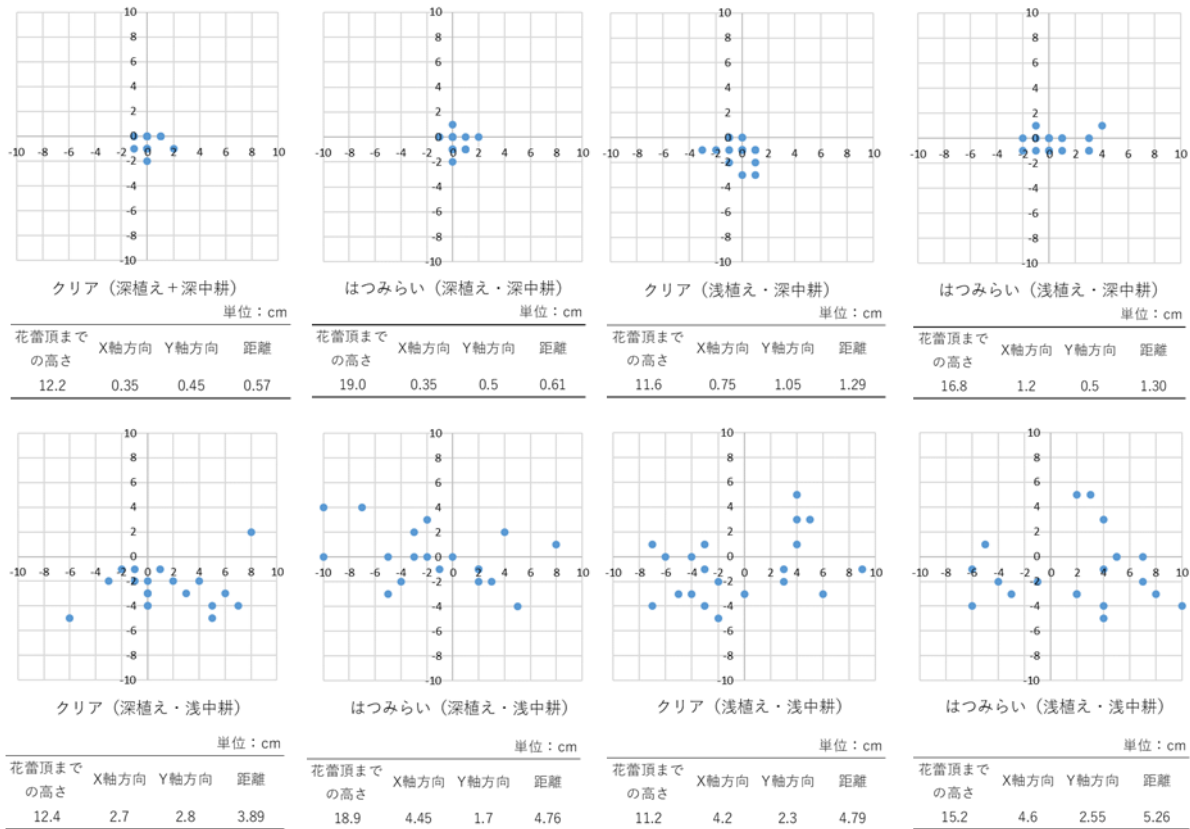


図2 定植位置から花蕾位置までの距離 (出蕾時_12月1日)